

学校評価書

総社市立総社小学校
校長 高杉 整二
(公印省略)

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実【やさしい子】

総社市教育大綱…心優しい子供

① 道徳教育、人権教育、総社っ子供応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。

- ・毎月、品格教育のテーマと関連した価値について道徳の授業を行った。道徳教育推進教師が示す指導のポイントや内容項目の扱い等を参考に児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行い、次年度に繋がるよう授業の流れ、ワークシート、板書はデータで残し、資料は教材ごとに整理し、継続した道徳教育の充実繋がるようにした。
- ・6月の「いじめについて考える週間」や12月の「校内人権週間」等を中心にいじめについての話や人権作文の読み聞かせ、人権標語に取り組むとともに「いじめゼロ みんな笑顔の総小っ子」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。
- ・教室内や廊下に児童のがんばりを認める掲示物がたくさん見られたり友だちのやさしさやがんばりを記したくすの葉が1月末現在で1,500枚を超すなど認め合い活動の充実が児童同士の絆や思いやりの心を育てることに繋がっている。来年度以降も本校の大きな柱として、この取組をさらに充実させていきたい。
- ・縦割り班活動を積極的に取り入れることにより異学年の関わりを大切にすることができた。

総社市教育大綱…礼儀正しい子供、総社を愛す子供

② 「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。

- ・「すきだ総社小学校」の「す」進んであいさつを重点目標とし、品格教育のテーマ「あいさつ」4月、「礼儀」1月は挨拶の強化月間としてする。また、あいさつを毎月第一週の生活目標に掲げ、継続して指導を行うとともに生活委員会や計画委員会、6年生ボランティアを中心にあいさつ運動の取組を行った。こうした取組の成果として朝だけでなく校内で出会った時、多くの児童が進んであいさつができています。また、地域にも目を向け、地域ボランティアへのアンケートを行い、地域の方へのあいさつができていない実態を把握し、登校する際、登校班で児童の意識が高まった。先頭からあいさつリレーをする取組につなげた。
- ・「き」きちんと歩行は、生活委員会が歩行を呼び掛けるポスターを廊下に設置したり、下校時には計画委員会を中心に廊下に立ったりして黙ってきちんと移動できるよう促した。その結果、児童の意識が高まってきた。

- ・「だ」 “だまって掃除”については、6年生がリーダーシップを発揮し、徹底できるようになってきている。

2 健康・体力づくり【たくましい子】

- ③ 健康教育・特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中ブロックの学校園と連携し、減メディアの取組を推進する。

・基本的な生活習慣の中で特に、重点として感染症対策とメディアコントロールの2項目を取り上げ、毎日朝・業間時に手洗い・換気励行の放送を行い、習慣付けを図った。メディアコントロールについては、総社東中学校の年5回の定期考査に合わせて「メディアコントロール週間」に取り組んだ。児童には保健委員会による校内放送、家庭には学校保健委員会日より、保健日より等を発行して意識の向上を図った。

年間5回のメディアコントロール週間を中心に、「メディアからはなれる時間をつくって心もスッキリ！体もスッキリ！」というスローガンを掲げ、減メディアや早寝早起き等に関する取組や家庭への啓発に取り組んできた。児童・保護者・教職員は目標の80Pに達している。継続した取組により意識が高まっており、引き続き中学校区で連携して粘り強く取り組んでいきたい。

- ④ 目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。

・児童と教職員のアンケート結果が昨年度よりポイントが上昇している。1学期から運動委員会が全校でチャレンジランキングに挑戦する取組を行い、全校で運動をする機会をもつことができた。

3 確かな学力の向上【すすんで学ぶ子】

- ⑤ 児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。

・今年度も学年、年齢層の異なる3人が1グループになり、互いの授業を見合い、振り返り、授業力の向上を図った。

- ⑥ 朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。

・朝学習の時間には基礎学力、「総小チャレンジタイム」には表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また、朝学習や「総小チャレンジタイム」には、学校支援ボランティアの協力を得て担任と複数で指導に当たることができた。その結果、6年生対象の全国学力学習状況調査や3～5年生対象の岡山県学力テストでは、5年生以外は平均正答率が上回り、これまでの取組の成果が見られた。5年生は、結果を受け止め、3学期から朝学は、習熟度別で実施している。来年度も①授業、②授業外（朝学習、総小チャレンジタイム）、③家庭学習の3本柱を軸により充実した取組を行い、学力向上を図っていききたい。

4 地域とともにある学校づくり

- ⑦ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。

・学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともにホームページや総社市安心メールを使って情報共有を行ってきた。また、各種会議等の場を使って、現状や学校としての考え・取組を理解していただけるよう説明責任を果たしていきたい。

⑧ きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域、関係機関との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。

・総社東中学校ブロックの幼稚園、小・中学校と連携し、確かな学力の向上を目指し、学びの基盤となる力の向上、教職員の授業力向上、教職員のチーム力向上を柱に様々な活動に取り組んだ。今年度は、校種を超えたピア・サポート活動、幼小・小中の情報共有、東中オープンスクール等は実施ができた。今後も、東中学校ブロックの幼稚園、小・中学校とさらに連携を深め12年間を見通した取組を進め、児童の健やかな成長を促していきたい。また、保育園や、高校、大学との連携も進め、多くの繋がりの中で子どもたちを育てていきたい。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	萱原 潤 (地域住民)
中川 麻衣子 (川崎医療福祉大学)	三上 啓子 (有識者)
宮本由里子 (地域住民)	平松 桂子 (地域住民)
高見 郁 (PTA会長)	村上 聡子 (PTA副会長)

3 学校関係者評価

- ・情報発信は、ホームページに限らなくてもよいのではないか。保護者が必要とする情報が何なのかを調査してもよいのではないか。
- ・家庭学習は、家だけでなく学童等での学習もカウントしても良いのではないか。アンケートにも分かるように位置付けるとよい。
- ・⑧と⑨の文言の検討をするとよい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題、学校関係者評価等をふまえて、学校経営目標を本年度より高いレベルで実現することを目指して、来年度も同様の学校経営目標を設定する。